

## 5 戦略

Hondaのサステナビリティ	18
持続的な成長のために	19
2030年ビジョン	20
マテリアリティ分析	21
Hondaの取り組みとSDGs	22
サステナビリティマネジメント体制	25
ステークホルダーエンゲージメント	26
研究開発	30

**— イノベーションマネジメント** ..... 31

**イノベーションマネジメント**

Honda の研究開発子会社である株式会社本田技術研究所は、従来の機械工学に加えて、脳研究や視覚・聴覚認識など最先端の知能化研究をさらに進化させることを目的に、2003年に株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュートを設立。ドイツ・フランクフルト、米国・シリコンバレー・コロンバス、日本・埼玉県和光市に拠点を設け、先進科学研究者とのネットワークを構築し、研究に取り組んできました。

また、株式会社本田技術研究所の米国・シリコンバレーにある同社の子会社である現地法人 Honda R&D Innovations, Inc. では、2015年より、オープンイノベーションを通じて革新的な製品やサービスをつくり出すプログラムとして、「Honda Xcelerator（ホンダ・エクセラレーター）」を、シリコンバレーを中心に、イスラエル、欧州、中国、日本などで推進しています。Honda Xcelerator は、革新的なアイデアを持つスタートアップ企業に対し、資金援助やコラボレーションの場、テスト用車両、Honda のメンターによるサポートなどを提供するプログラムです。パーソナルモビリティ、自動運転、人工知能、先進素材、ロボティクス、エネルギー、ヒューマン・マシン・インターフェース、製造技術などの領域を開発対象として、共創を通じたモビリティやエネルギーマネジメントの進化をめざしています。

株式会社本田技術研究所は、この Honda Xcelerator を通じて、世界各地のスタートアップ企業と、相互にメリットのある戦略的関係を築き、新たな技術やビジネスモデルを採用した、将来の製品やサービスの研究開発を進めてきました。2020年4月からは、本社の「経営企画統括部 ビジネス開発部」に、その機能を統合し、社会実装に向けた準備を加速しています。

一方、日本でも知能化研究開発を加速するために、外部有識者や研究機関との連携を図る共創の場として、「Honda イノベーションラボ Tokyo（英語名称：Honda R&D Innovation Lab Tokyo）」を、2017年2月に東京・赤坂に開設しています。

また、2017年4月に開設した「R&D センター X（エックス）」では、「ロボティ

クス」「CI」「エネルギーマネジメント」などの技術を研究してきました。2019年4月からは、豊富な商品開発の経験を有する「パワープロダクツ R&D センター」と、この R&D センター X を融合させ、既存パワープロダクツ商品の知能化や新価値創出を実現する「ライフクリエーションセンター」として活動を進めてきました。なお 2020年4月には、「ライフクリエーションセンター」のパワーユニット開発機能について、新設された「先進パワーユニット・エネルギー研究所」に移管し、「暮らし」の未来を創造する「完成機開発室」と、新たな事業の柱となるマリンの商品開発を行う「マリン開発室」を新設しました。